

76. 人類滅亡？

1. (地球温暖化) 今年の夏は殊の外暑く、しかも長い。気象庁の HP で地元「青梅」の気温を調べると、7月は35℃以上(猛暑日)が13日、8月は20日までに8日だ。7月14日に29.7℃だったのが翌々日には今年最高の39.0℃。家の外側の西日が当たっている所に行くと目眩がするようだ。因みに青梅の最高記録は2018年7月23日の40.8℃で都の最高記録。7月25日発表の今後の3ヶ月予報の平均気温は、平年より低い・並・高いの確率は関東以南で20・30・50、沖縄は10・20・70[%]だということから、まだまだ暑さが続く可能性が高い。

そんな中ショッキングなニュース。国連のグテレス事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した」というのだ。思い切った表現に少しビックリだが、WMO(世界気象機関)の「2023年7月は世界の平均気温が観測史上最高の月になる見込み」との発表を受けてのことらしい。7月の猛暑を分析すると「気候変動の影響で多くの国で猛暑となる確率が大幅に高まっていた」らしい。

グテレス事務総長は「人類が破壊を解き放ったという証拠はいたるところにあるが、それは絶望ではなく行動を引き起こすものでなくてはならない。最悪の事態はまだ食い止めることができる。しかし、そのためには燃えるように暑い年を、燃えるような野心の年に変えなければいけない。気候変動対策を今すぐ加速させるのです」と述べ、再生可能エネルギーへの移行や開発途上国への資金援助などの必要性を訴えた、という。

カナダやギリシャなど世界各地で熱波の影響とみられる山火事が発生している。ハワイ・マウイ島の山火事も無関係ではないだろう。日本では相次ぐ台風だ。

地球温暖化が異常気象を発生させ、自然災害が増え、生態系への影響から食糧事情にも影響が及ぶ(サンマが食べられなくなった!)という構図から脱却するには、CO2等の温室効果ガスの排出を思い切り削減する必要がある。「カーボンニュートラル」は「2050年までに温室効果ガスの人為的な排出量と森林などの吸収源による吸収量を均衡させる」ことであり、「世界的な平均気温上昇を工業化以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること(2℃目標)」でもある。(2015年パリ協定による世界共通の長期目標)

「地球沸騰の時代が到来した」というのは、あと27年のカーボンニュートラルのスケジュールから逸脱したことを危惧したということではないのか。ならば地球の未来は明るくない。

2. (核戦争) 8月6日の広島平和宣言(松井広島市長)をテレビで聞いた。翌日の新聞記事でその内容を再確認した。その一部を引用(要約)。「G7で初めて広島ビジョンが独立の文書としてまとめられ、(略)核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認され、それとともに各国は核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立てるべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示された」、「しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちが厳しい現実から理想へと導くための具体的な取組を早急に始める必要があるのではないか。(略)為政者に核抑止論から脱却を促すことがますます重要になっている」

核は抑止力にならないことを明確に述べたもので評価する。核抑止論は破綻し、プーチン大統領の行動は核威嚇論でしかないのだ。そして、「日本政府には、被爆者を始めとする平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、核保有国と非核保有国との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただき、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となり、核兵器廃絶に向けた議論の共通基盤の形成に尽力するために、まずは本年11月に開催される第2回締約国会議に

オブザーバー参加していただきたい」という。

賛成だ。日本政府は「橋渡し役を果たす」と言っているのだから、オブザーバー参加して進展を図るべきと思う（「折々の記」No.46 参照）。

ところで6月13日の記事は、ストックホルム国際平和研究所の核の状況報告を紹介している。

- ・中国の核弾頭は60発増え410発に、中国が核戦力を著しく拡大し始めている
- ・北朝鮮は5発増え約30発に、10年以内に80～90発の製造ができる計算
- ・ロシアは5889発、米国は5244発保有
- ・核兵器を有する全ての国で核戦力の近代化が続いている、運搬手段のミサイルや新たな核弾頭の開発が進んでいる
- ・ロシアは2月に米ロ間に唯一残る核軍縮合意、新戦略兵器削減条約（新START）の履行停止を表明、侵略開始後、核兵器管理と核軍縮外交は大きく後退

核を巡る状況は決して良くないのだ。時系列的には少し遡るが、今年1月に人類の終末まで「残り90秒」という終末時計が発表された。1年前より10秒短縮した。終末時計は米国の原子力科学者会報が定期的に発表していて、核戦争等による人類の終末を午前0時とし終末までの残り時間を示している。10秒進んだのは「ウクライナ侵攻と核兵器使用のリスクの増大、気候変動がもたらす継続的な脅威や、新型コロナウイルスなどの生物学的脅威に関するリスク低減に必要な国際規範や制度が機能停止に陥っていることも要因」としているという。

3.（生成AI、チャットGPT）新聞の切り抜きで、話題の「チャットGPT」の最初の記事は3月14日だ。それ以来切り抜きは溜まる一方だ。遅まきながら筆者も無料のV3.5を実際に使用してみた。質問に対して答えの傾向をきちんと述べるまで使い込んでいないが、答えは1～2秒、指定文字数内で読みやすい自然な文章で返ってくる。それは凄い。内容は質問内容によりの射たものから、間違いを多く含んだ噴飯物まで千差万別であった。その境界が判然としないから世の一般的評価と違って筆者の評価は低い。

HPの検索で情報を得る方法とは質的な差があるのは明らかだが、生成AIの仕組みが不明なことや、引用元が表示されないなどの問題、それに使用してみると、分からないならその旨を答えれば良いのに無理に間違った内容を返すような（本質的）問題もある。その上でこの技術が社会に及ぼす影響が桁違いに大きいのも容易にわかる。それはプラスの面よりマイナスの方が大きいように思える。便利になると善用に開発したものが、様々に悪用される歴史を知っているからだ。あらゆる分野でニセ情報の急激な拡散、より巧妙なサイバー攻撃、そして悪用とは異なるが雇用の喪失、等々が現実的になれば人間の社会に対する脅威になりかねないし、一度この波に乗れば引き返すことができなくなる。『「チャットGPT」という怪物 未来への脅威も大』（池内了氏）なのだ。

そして6月1日の「AIによる人類が滅亡のリスク」記事。米非営利組織CAISが「AIによる人類絶滅リスクを緩和することは、パンデミックや核戦争などの社会的規模のリスクへの対応と並ぶ世界的な優先事項であるべき」と主張しAI関係の著名人が多数署名して注目を集めた。「AIの知能が人類を上回ると人類は制御不能になる」というのだ。しかしこの主張から何をするのが伝わって来ない。これに先立つG7では「広島AIプロセス」が始動し国際的なルール作りが始まった。人類は有効な対策を打たなければならなくなってきた、ということだ。

全て人間の欲望の為せる技だ。慨嘆するしかない。

（2023年8月24日）